

# 人を結ぶコンピューター理論

コンピューターの理論を応用し、アイデアや能力を持つ個人同士を結びつけて、地方発の起業や地域活性化を促進する試みが、熊本市で進んでいる。来春、市内の崇城大に理論を学ぶ新たなコースが誕生するほか、ソフトバンクなど県外企業も参加し、学生や市民向けの講座やワークショップを開く。関係者は「まず熊本で実績を残し、全国に取り組みを広げたい」と語った。

(中村雅和)

## 熊本・崇城大星合教授が研究



イノベーションを担う人材育成を始める崇城大情報学部の星合隆成教授

旗振り役は、NTT出身で同大情報学部の星合隆成教授だ。星合氏はネットワーク技術の専門家として、ピア・トゥー・ピア（P2P）の研究で注目を集めた。

P2Pは、複数のコンピューターに分散して仕事をさせることで、スーパーコンピュータに匹敵する処理能力を可能する。その技術は、仮想通貨のビットコインの取引記録管理にも使われている。

星合氏はこのネットワーク理論を応用し、人や組織の最適な結びつきを目指す「地域コミュニティプラットフォーム（SOCB）理論」を提唱した。「長年、コンピューター同士をどう結びつけるかを研究していた。P2Pが社会に浸透し、次は人間同士や組織をどうつなぐかに、興味が移った」と語る。

目標、ここに個人や組織が持つ能力、実績、資金な

## 起業促進や地域活性化、コースを来春新設

や学生と直接結びつけたことで、二つとアイデアに気づき、iPadケースなどヒット商品を生んだ。

また、農林水産省の組織改革や、国土交通省にも取「道の駅」の連携策にも取り入れられた。民間企業を含め全国で50以上のプロジェクトが進むという。

星合氏は、SOCB理論の普及を目指す。崇城大は今年1月、星合氏が所長を務める「SOCBラボ」を発足させた。さらに令和2年度に新設される情報学部未来情報コースで、SOCB理論を学生に教える。授業では、ソフトバンクなど企業担当者との実地研修も予定する。

学外では、熊本市中央区にあるシェアオフィス「ザカンパニー熊本」で、講座やワークショップを開く。関心のある市民が、週末を中心に、SOCB理論の基礎を学んでいる。

星合氏は「われわれには他にはない理論がある。日本の将来に不可欠なイノベーションを担える人材を育成してみせる」と語った。